

「マスク＝日本人」が世界的に浸透 なぜ外さないのか

2022/6/19 毎日新聞



新型コロナウイルスの影響を受け、マスクをつけて通勤する人たち＝東京都中央区で、小川昌宏撮影

欧米ではマスクを外した生活が普通になっているのに対し、日本ではいまだにマスク着用が続いている。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、政府はマスクを外しても構わないという場면을例示したが、マスクを着けている人が多い。なぜ日本人はこれほどマスクを着けたがるのか。そのルーツは何か。マスク史に詳しい住田朋久・慶応大大学院社会学研究科訪問研究員に尋ねた。【聞き手・宇田川恵/オピニオングループ】

元々はファッションアイテムだった

——マスクの起源はどこにあるのですか。

◆近代のマスクの原形は1836年に英国で登場した。元々、呼吸器を患う人のために開発されたもので、鼻と口を布で覆い、布の中に格子状の金属が入った構造だった。患者が着用すると、温かく湿った空気を吸うことができたようだ。これが日本に輸入され、その後は国内でも製造された。1880年ごろまでには都市部で広がったという記録がある。

——今のマスクとの違いはあったのでしょうか。

◆初期のマスクは黒色。布製に加え、革製もあったようだ。現在のマスクは感染予防が目的で、誰もが着けるのは「同調圧力」のせいだと言われるが、当時の状況は全く異なっていた。日本ではこの頃、急速に近代化が進められており、西洋からやって来たマスクは

先進性の象徴で、あこがれの存在でもあった。時代の先端をいく人がファッションで着用し、防寒を兼ねたトレンドアイテムとして一般の人にも広がっていったようだ。

感染予防のマスクは大阪が発祥？

——感染予防のために用いられたのはいつごろからですか。

マスクをして歩く人たち＝東京・銀座で、丸山博撮影

◆19世紀末にアジアで「肺ペスト」が流行し、その対応について協議するため1899年に

ドイツで「ペスト会議」が開かれた。この時、マスクを推奨すべきかが議論されたが、科学的根拠が不明だったため結論は出なかった。しかし、1900年ごろに大阪で感染が拡大し、同年1月に地元の医師らが死亡すると、検疫官がマスクを着けるようになり、大阪ではマスクが普及した。これが感染症対策のために人々がマスクを着けた初の出来事だった可能性がある。

つまり専門家らが推奨しなくても、日本人は自発的にマスクを着けてきたのだ。今のコロナ禍も同じ状況で、2020年3月下旬の政府の専門家会議では、尾身茂氏（現対策分科会会



マスクをして歩く人たち＝東京・銀座で、丸山博撮影

長)をはじめ、政府関係者や専門家のほとんどがマスクを着けていなかった。だが、その約4週間前の3月2日のJR品川駅の写真を見ると、大勢の通勤通学客のほぼ全員がマスクをしている。鉄道会社が着用を呼びかけたためでもあるが、人々は政府や専門家の指示より、身近な集団の規範やルールに従って行動していることがよく分かる。

政府の指示より「空気を読む」

——政府の指示に従っているわけではない。

◆その通りで、これは興味深い特色だ。日本では政府が強制的に国民を動かそうとしても簡単ではないということだ。逆に、重大な問題が発生したら国民は自主的に対処したり、政府が求める以上の行動を取ったりするので、政府はかなりの責任を免れる。元々、日本では政府と国民との間の距離が離れていると言えるのかもしれない。

一方、正しい政治プロセスで決まった法律などより、「空気を読む」など独自のルールが重視されるのは決してよいとは言えない。他人の目を気にしたり、他人に迷惑をかけてはいけないと思ったりして自主規制しすぎるのも問題だ。

「マスク＝日本人」は世界で浸透

——欧米では既に、大多数の人がマスクを着けなくなっており、日本国内の政財界からは「日本だけいつまで着けているのだ」と困惑する声も出ています。海外の人の目から見て、コロナ前から日本はやはり特殊なのでしょうか。

◆20世紀前半の現在のソウルでは、マスクを着けている人は日本人だという見方が定着していたという。1930年代の中国・上海では、日本兵が着けている黒いマスクは暴力性の象徴とされていた。終戦直後は「日本人みたいな奇抜な格好をしてはいけない」などとして、中国の一部でマスク禁止令が出たという話もある。大気汚染などでマスクが一般化してきた東アジアでも、日本人とマスクは切り離せないものとして長年捉えられてきた。

一方、最近の英国の報道では、ロンドンの人にとってのマスクは「銀行強盗か、エキセントリックなスターか、日本人観光客」だったと伝えている。「マスク＝日本人」のイメージは世界的に浸透している。

——日本人がマスクを着けることは広く知られており、無理に外させる必要などない？

◆マスクの着用について「政府はもっとルールを明確にすべきだ」という声が出ている。だが歴史を振り返れば、日本人は150年も前から、進んでマスクを着けてきた。比較的治安もよく、マスク姿で街中を歩いても違和感ない環境にあった。コロナ前にはファッションの一環として「だてマスク」さえはやっていた。

もちろん、ほとんどの人がマスクを着け続けている状況は人類史上、ほかに例がない現象だ。だが、マスクを着けるか外すかは各自で決めるべき問題で、政府がこれ以上関わる必要はないと思う。逆に政府が何を言っても人々は気にしないだろう。

